日本クリスチャン・アシュラム連盟

イエスは主なり

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕　137号

「神とその恵みの言葉」

使徒言行録20章32節

杉田常夫

「そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。」これは、使徒パウロが第三次伝道旅行の帰途、エフェソ教会の長老たちを呼び寄せて語った、訣別の説教の一節です。彼が三年間、夜も昼も涙を流して教えてきた「恵みの言葉」に、堅く立つよう勧めています。主イエスの福音こそ、わたしたちの信仰の確かな基礎です。

そしてここで、エフェソの長老たちを、「神とその恵みの言葉とにゆだねます。」と篤い祈りの心を言い表しました。使徒が去った後に、残忍な狼のように迫害する者どもが入り込んで来て、神の教会を荒らす危険が迫っていると警告しています。エフェソの長老たちが負わされていた使命は、人の能力をはるかに超えた偉大な、難しい働きでありました。

スタンレー・ジョーンズ博士によって始められたアシュラム運動は、神から授けられた偉大な使命を遂行する、今日の教会が直面している困難な課題に、どう対処すべきかを教えてくれます。この働きは人間の決意や努力だけでは不可能です。ひととき日常の働きの場を離れて、恵みの言葉と祈りに没頭する静かな時が必要です。

使徒は続いて、「この言葉は、あなたがたを造り上げ…ることができるのです。」と語ります。わたしたちをその働きにふさわしく造り上げるのは、わたしたちの決意や努力ではありません。神はその恵みの言葉によって、わたしたちを生まれ変わらせ、イエスの形に似たものに造り上げてくださいます。その力は神とその恵みの言葉にあります。

神は日々、主イエスの福音によって、わたしたちを養い、育ててくださっています。しかし、一年の間の二、三日でも、聖書と祈りに没頭するアシュラムによってもわたしたちの信仰は、いっそう力づけられます。

今年も各地で実施されるアシュラムに参加されて、主に結ばれた兄弟姉妹たちとの交わりを深め、み言葉と祈りの恵みにあずかられるよう願っています。

（前・香里教会教師）

霊想

わたしたちは キリストの体

エフェソ一：十五～二十三

横浜岡村教会牧師
安藤　脩

伝道者にとっての喜び

以前私どもの教会で伝道師をしておられた利川先生から、会堂建築のためにと献金がお便りと共に一昨日届きました。その手紙に記されていた聖句が「教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です」（エフェソ一：二十三）と、本日のメッセージの聖句と同じでした。

あゝ、利川先生も私達の会堂建築を喜び、同じ心で祈っていて下さるんだなーと嬉しくなりました。

伝道者、牧師にとって、何が喜びかご存知でしょうか。もちろん第一には、人々が罪を悔い改め、イエス・キリストの十字架の贖いを受け入れ、救いに預かることです。そして教われた人が信仰から信仰へと成長する姿を見ることができるときです。だからパウロも「わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています」（一：十五～十六）と言っているのです。

かつて自分が伝道牧会した教会について、「あの人がもう教会に来ていない。あの教会は今は衰えている」という便りを耳にすることは、悲しく寂しいことです。自分の宣教、牧会の仕方が悪かったのだろうかと、心が痛むのです。

利川先生も喜んで下さっていると私が感じたのは以上のような理由からです。それと同じように、パウロもエフェソの教会の人々の成長を耳にして、喜び祈ったのです。今まで交わりを持った人々のために折れることは感謝です。又、祈って頂けることは、なんと力づけられ感謝なことでしょう。

こころの目を開いてくださる

十七節に「神を深く知ることができるように」とあります。人間は完全に神を知ることは出来ません。もし人間が神を完全に知ることが出来たら、人間は神と等しい存在ということになるでしょう。実は、この神を完全に知り、神と等しい者となり、神を必要としない生き方を求めたところに、人間の罪の根源があります。しかしどんなにしても、造られたものは造った主権者（神）を知り尽くすことは出来ないのです。それで、神はご自身を父なる神、子なる神（イエス・キリスト）、聖霊なる神という三つの姿で人に示されました。

それぞれの姿は神の一面ではありますが、全てではありません。神の全てを一面で考えようとすると、人間の頭脳の限界を超え、矛盾として映ってしまうのです。人間は自分の力で神を知ることは出来ません。

しかし嬉しいことには「御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるように」（十七～十八）とあります。これは、神がご自身を私たち人間に示す為に、ご自身の霊を与えるということです。Ⅰコリント二：十には「わたしたちには、神が〝霊〟によってそのことを明らかに示してくださいました。〝霊〟は一切のことを、神の深みさえも極めます。」私たち人間は知脳で神を知ることは出来ません。しかし、神の与えたもう霊によって、神を知ることができるのです。神は知的に知る存在ではなく、心で受け入れるべき存在なのです。

神のご計画と私たちの希望

この神は、アダムとエバが神を見失い、神が与える祝福を失った時から、計画を持っていました。九節に「秘められた計画」と記されているもので、「キリストによって実現される計画」（エフェソ三：四）であります。そしてその計画とは「異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです」（三：六）と記されているもので、イエス・キリストによる全人類の救い、祝福を意味しています。全ての創造者であり、命の源なる神は、私たち人間を救う為十字架に架かられたキリストを、死者の中から復活させ、ご自身の全ての権能を託されました。キリストにより贖われ、キリストを主として受け入れた者は、キリストを頭とした神の家族であります。キリストはこの神の家族・教会のうちにいつも満ち満ちておられるのです。

そして光栄なことには、私たちはこの教会を形成している体の一部なのです。

立　証

わたしの証し

永田　直子

現在は浄風教会に属しています。出身は長崎県五島市です。高校卒後（一九五二年）、国立大村病院（現長崎医療センター）に入学しました。その三年の間に、校内での夕拝に導かれ初めての祈りを経験しました。愛された実父が急死という事態を入学後一か月ほどでこの身に受けたのです。一九五四年、二十才で洗礼を故三岡一郎牧師より授かりました。（日基大村教会）。

イエス・キリストとの出会いによって友と学舎の丘で讃美歌を合唱したり教会に通ったことは愉しい思い出となり、新しく生まれ変る出発の時でした。ナースとして国試を得、手術室勤務の四年間を経験して、東京での勤務となりました。清瀬の結核外科病院でした。結婚し子供のいのちを与えられて、病院での仕事の意義、「いのち」の大切さ、そして永遠の命へと広がり希望でした。同じ病院で三十余年も勤続しましたが、変動の時代で、一九六二年より七年間は中野区の診療所に出張勤務しました。その後、清瀬に戻り救急患者さんの対応となりました。夜間当直は、週一回は定番で、家族の協力なくしては、勤まらないものでした。小学一年の息子は医者になりたいと言い、成長と共に夢は変わらず、親は一度も勧めなかったのですが、親子で我が道を歩いています。かえりみますと、天に召された故市川忠彦牧師（元練馬開進教会）に三十年余も会員として、家族ともに、親しい交わりを頂いたことは、若き親子の時代にありては天よりの賜物でした。

故市川牧師の召天後、ご夫人の勧めもあって、東神大公開講座に入学を許され二年間を夜勤業務を福祉施設で勤めながら果たしました。また、故海老沢宣道牧師より、アシュラムの手引きを頂き感謝に堪えません。今も七年間にわたり、望みのキングスガーデンにおいて週二回程の仕事がゆるされ、教会を基とし、アシュラムへの関わりを主に感謝します。

最後にクリスチャンアシュラムの高祖であるE・スタンレージョーンズ師のおことばを記させて頂き、わたしの証しを結びます。「自発的で創造的な信仰に対して開いた宇宙がやって来たのです。私たちが、神と協力して実現しなければ、決して実現されないであろう多くの事柄が、祈るか、祈らないかに、かかっています。私たちが祈りの中に入るとき、この自由と可能性の世界に入っていくのです。」（E・スタンレージョーンズ著）

「いかに祈るか」白河鄭二、飯島庸江共著。

池の上アシュラムの恵み

飯島　延浩

池の上キリスト教会では、二月の城北アシュラムに加えて、教会員を対象とした一日アシュラムを開催するようになって七年目になります。当初は、島津先生を中心に教会員が全て担当して一日アシュラムを持ちました。福音の時の担当が大変負担が重く、外部の先生にお願いすることが良いということになり今年は、青梅教会の有馬歳弘先生に午前の礼拝と、福音の時をご担当いただき、大変良い一日アシュラムを持つことができ感謝でした。

また、アシュラムに参加するためのニードについても、次第に内容に変化が出て参りました。通常、アシュラムでは、一個人の神への祈り求めをニードとして把握し、そのお答えをいただくために、祈りつつ、アシュラムの時を過ごしますが、教会内アシュラムであることもあり、教会員としてのニードという観点から、教会活動をより良く前進させるために必要なものは何か、今、特に取り組まなければならない事柄は何かを、ニードとして持つようになりました。

祈りの細胞は、一回しか持つことが出来ませんでしたが、それぞの人のニードをお聞きし、又、私も私のニードとして「教会活動を充実するために何をしたらよいか」それを見い出したいというニードを発表しました。すると、祈りの細胞の全員が一致して、教会員の名札を付けるようにしてもらいたいとの願いでした。教会員の人数が増えたことと、又、教会員の高齢化が進み、名前を覚えきれない、顔を見ても名前が出てこないということからの願いでした。教会内の一日アシュラムは、個人的なニードと共に、教会員としてのニードも取り上げることができ、教会活動を一歩前進させる方向付けを得ることができ心から感謝しています。有馬歳弘先生は、ローマ書十章より人は心で信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。また、主の御名を呼び求める者は、誰でも救われるのですとのみ言葉から、互いに愛し合い、互いに仕え合う、クリスチャンとしてのあり方を力強くお語り下さり感謝でした。

第七回　池の上アシュラム報告

荒井　光夫

二〇〇四年五月二十三日礼拝後、当教会のアシュラムが開催されました。教会が新宿から三鷹に移転して間

もなく始められたこのアシュラムは、今年で七回を数えるに至りました。

今回の参加者は、新しい方も加わり五十四名でした。また、助言者としてお迎えした有馬歳弘師（青梅教会牧師、前関東アシュラム委員長）は、午前の礼拝からご用してくださいました。

主題に「新しい歌を主に歌え」（詩篇九十六篇一節）を掲げ、まず島津吉成師による「オリエンテーション・開心の詩」を通し、イエス様がバルテマイの目を開かれた様に、主は参加者の心の目を開いてくださいました。

続く「静聴の時」は、飯島延浩兄の導きにより、ヤコブ書四章全体から神様の語りかけを静まって聞き、皆が次々とみ言葉を分かち合いました。

その後の「祈りの細胞」は七グループに分かれ、茶菓を頂きながら和やかなうちに進められました。ふだんの教会生活では、各々がニードを出して祈り合うことがなかなか出来ませんが、アシュラムのこの時間は、貴重で大切な時であります。

続く「福音の時」は、有馬師がローマ書十章五節から十三節を通し、イエス様を私達の心に主としてお迎えするようにと、力強くメッセージを語ってくださいました。

最後の「充満の時」は、島津師の導びきにより、参加者が与えられた恵みや決心を分かち合い、一同が輪になって心から賛美し、祈りをもって終了しました。

アシュラムとしては、時間的に十分とは言えませんが、信仰生活の基本を身に付ける上で重要であり、教会成長において一つの助けになっていることを感じました。

第二十三回 岡村アシュラム報告

岡村アシュラムは横浜岡村教会主催の小さなアシュラムです。今年は助言者を主任の安藤脩牧師が務め、証し者として永田直子姉（浄風教会員、関東アシュラム委員）においで頂きました。

開催日時・七月十日（土）午後三時～十一日（日）午後三時

主題「わたしたちはキリストの体」でした。

このアシュラムのために三週間、コリント人への手紙第一とエフェソ人への手紙を毎日一章ずつ読み、それぞれが準備祈祷をし備えました。

岡村アシュラムの特徴の一つは、ファミリー・アワーです。神の家族としての交わりを深める為に、楽しいゲームや個々人を知るトークの時がありますが、今年は新会堂建築設計について質疑応答、意見を出し合うことにより、他者の考えや願いを知り、より一層、互いを知ることができました。

「会堂建築は、教会づくり」という考え方が、定着しつつあります。アシュラムの目的は真のキリスト信者に造り変えられることですが、会堂建築も、ただ会堂を建てることではなく、自分がキリストの体なる教会の生きた素材となって行くこと、つまりキリストの姿に似てくのであります。今回のアシュラムは新会堂建築という具体的な出来事を通しつつ、キリストの体である自分を見つめる良い時となりました。

十一日の愛餐の時の後、パロ王を任命し、労作の時があります。庭の草刈等も行う予定でしたが、パロを任命している時、急に空が暗くなり、雹まで降る激しい雨風になるというハプニングがあり、思い出深いアシュラムになりました。

出席は十日が十八名。福音の時は四十五名。最後の充満の時の参加が三十三名でした。

（文責・安藤　脩）

各地区アシュラム

●第四十二回関東アシュラム
と　き・二〇〇四年九月二十日（月）～二十二日（水）
ところ・山崎製パン箱根山荘
助言者・後宮俊夫師（日基甲西伝道所牧師）

●第三十八回関西アシュラム
と　き・二〇〇四年十月十日（日）～十一日（月）
ところ・国際交流セミナーハウス皇子が丘荘

●第三十九回九州アシュラム
と　き・二〇〇四年九月十九日（日）～二十日（月）
ところ・福岡黙想の家

●第九回富山アシュラム
と　き・二〇〇四年九月二十三日（木）～二十四日（金）
ところ・インテックス大山研究所
助言者・赤松敬明師（日基坂城栄光教会牧師）

東京都目黒区中央町1の21の10
碑文谷教会気付
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座　東京〇一〇〇－一－四五五八
理事長　大石嗣郎
編集人　横山義孝
定　価　一部60円　〒80円